

提案名	「大樹のめぐみ」超長期モデル	部 門	住宅の新築
提案者	株式会社茨城県南木造住宅センター	種 別	システム提案
構 造	木造（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅
概 要	すべての通し柱を茨城県産の7寸角とした構造による耐震性、間取りの自由度の確保等と、自然風等を利用したパッシブ工法による省エネの取組みを導入した茨城県を拠点とする工務店の提案。		

■概 評

地場産材の安定供給の仕組みや大工の技術の伝承への取組み、居住者の家への愛着を育てる取組みを含め総合的に評価した。

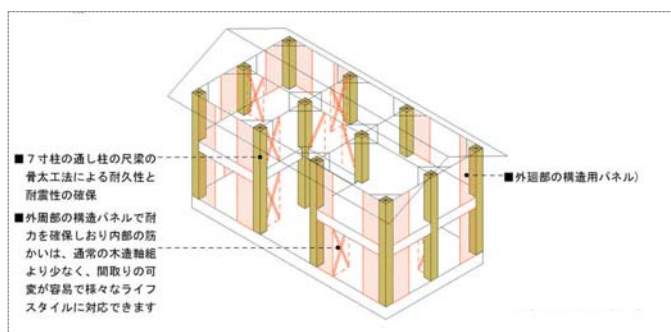
■提案の基本的考え方

茨城や千葉県の北部は、農業が盛んなこともあり、古民家が生き続けています。そのメンテナンス、曳き屋、移築、リフォーム、建て替え等を請け負う中で、超長期住宅の最も大きい支えは、「住まい手の愛情と愛着」にあると実感しています。この経験と豊かな茨城の気候・森林資源を活かした、将来に亘って愛され続ける住宅「大樹のめぐみ 超長期モデル」を提案しました。木造軸組工法を基本とし、それに、耐震性、断熱性、地域性、地域環境、自然環境、不動産価値などの総合的な視点から様々な提案をすることによって住宅の長寿命化を具現化します。

■提案内容

1、7寸角(200角)の通し柱と尺梁を1.5~2間間隔に配置した骨太工法

7寸角(200角)の通し柱を1.5~2間・間隔に配置し、尺梁(H300mm)を使用する骨太工法を基本とします。加えて、外周部に構造用パネルを使うことで、耐震性を確保しています。内部は少ない耐力壁量で十分で、内部間仕切りのほとんどが、自由にレイアウトできます。



間取りの可変性の確保により、その時代の機能性とライフスタイルとを反映できる計画的な耐久性を確保します。

2、夏涼しく、冬温かい家・・・次世代省エネ基準断熱+パッシブデザイン

木造住宅の特性である自然の共生に配慮し、地域の気候を生かした家づくりをしています。茨城県は豊富な日射量と風の通る気候が特徴で、自然環境を採り入れやすい環境です。断熱仕様は、次世代省エネルギー基準をベースとし、南面開口部を大きくして、積極的に冬の日射を取り入れ、室内に蓄熱の工夫をして暖房効果を得る。夏は、自然風や夜間換気に工夫して、冷房効果を得る。このような建築的工夫(パッシブデザイン)により、過度に冷暖房設備に依存することなく、夏涼しく冬温かい住宅を実現します。これによって暖冷房の省エネルギーを図り、地域環境負荷の低減に貢献する、持続可能な住宅とします。

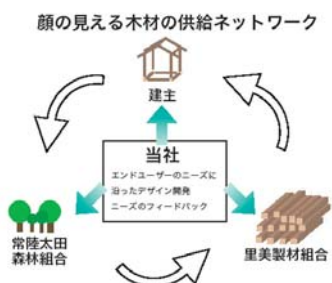
3、家への愛着を持つしくみづくりと安定供給

超長期住宅に取り組むために考えた基本は、耐震性や耐久性はもちろん、住人がその住宅に愛着をもつこと、大切に思える様な家づくりをすること、将来的な持続可能な体制を構築することです。そのために、「大樹のめぐみ」を基本として、木の家に愛着をもつこと、地域で長年培ってきた技術や住まい方の継承への取り組みを行っています。

①現場での取組み・・・・・・・・・・2人1組による技術の伝承（大工の子弟関係の構築）

当社は、将来的にも職人がつくる木の家を目指しており、施工に当る職人の育成にも力を入れていきます。茨城県南木造住宅センターのつくる住宅では、基本は親子の大工または師弟関係のある大工を2人1組採用し、継続して現場を担当しています。この方法により、大工は職業的安定と技術の継承を行うことが可能で、長期的な生産システムと、将来的なメンテナンスが可能になります。

②木材供給での取組み・・・・・・・・・・当社独自のダイレクトネットワーク



森林組合→製材組合→当社という、当社独自のダイレクトネットワークを活用しているため、安定した木材の供給が将来にわたり可能です。また、供給側とのニーズのやり取りにより、材料品質の向上や、必要部材の共有が可能です。地域の材料を地域で使用することで地産地消を実現しています。

③「つくばスタイル」木の家クラブの活動・・・・・・・・・・木の家の良さを情報発信

「つくばスタイル」木の家クラブ(当社事務局担当)では、茨城の県産材を使用した家を普及すること・長く受け継がれ愛着を持たれる家を普及することを目的に、将来、家をつくる予定の一般の方々、木の家に興味のある、職人さん、工務店、建築家(設計事務所)、その他関係者で、さまざまな勉強や見学を行い地元の木の家を良さを理解していただく活動を行っています。木の家クラブでは、特に「木の家に愛着を持ち、長く住んでもらうこと」、「世代を超えて受け継がれていくこと」を念頭に、建て主への積極的な家づくりへの参加を促し、暮らしを楽しむ為、施工側との意識、作業の共有化をはかっています。



■提案者からのコメント

長く生き続ける住宅の最も大きい支えは、「住まい手の愛情と愛着」にあると実感しています。これまで「つくばスタイル」木の家クラブの活動などで、住まい手への情報提供を進めてきましたが、住まい手側の意識や動議づけを改めて見直し、今後はより体験的な動議づけとなりうる活動をしていきたいと考えています。超長期住宅には、手をかけて暮らしていくことを楽しむことが重要で、住宅の供給側だけではできない、使う側の取り組みを喚起する方法を強化検討しました。

また、職人の技術の伝承も強化すべきポイントで、今後は住まい手との情報の相互交換も含め、進めたいと思います。